

熊本地震 人生が一変した村人たち 2年の記録

西原村

N I S H I H A R A M U R A

千年に一度といわれる活断層型地震が2016年4月、村を襲った。

一夜にして1200人が家を失った。

恐怖をのりこえ地元で再建するか、断層から離れた場所へ移り住むか、悩み続けた。

地域や家族の中でも、意見は割れた。

それでも、復興にむけ村をあげて 狼煙をあげる――。

[ドキュメンタリー映画 85分]

問合せ

e-mail: nishiharamuradocpro@gmail.com

公式ホームページ

<https://sites.google.com/view/nishiharamura-eiga>



2019年10月21日(月)

ふくふくプラザ (福岡市市民福祉プラザ)

福岡市中央区荒戸3-3-39

開場 18:00 開演 18:30 (終演予定 20:40)



講演：松永昭吾 博士 (工学)

「この国に生きるということ～過酷な自然現象との共生～」

入場料：大人 1,000円、大学生 500円、高校生以下無料

*入場料の収益は村へ寄付致します。



西原村長からのメッセージ

平成28年4月16日、熊本地震の本震が西原を襲ってから二度目の春がやってきます。私たちの故郷は大きく変わり果ててしまいました。被災した住民の多くは未だ仮設住宅等での避難生活を続けており、住まいの再建と暮らしの復興にむけ日々取り組んでいる状況です。

久保さんからはそんな西原の今を長期にわたって撮影していただいています。個人の想い、家族の葛藤、集落の未来、行政の役割、私たちがこの2年間考え動いてきたことを描いていただいています。

度重なる地震、水害、火山噴火、津波、日本列島に生きる人びとはそのたびに立ち上がってきました。私達は今回の熊本を襲った未曾有の惨禍からも必ず立ち上がらなければいけません。

この映画はその取り組みを語り継いでいくためのものです。私たちの被災経験を忘れずに次の世代に継承するために、そして西原の復興を次の被災地へつないでいくために、本プロジェクトへの応援をぜひお願いいたします。

2018年2月
西原村長 日置 和彦

<百年後に語り継ぐために、震災の記録映画を作り、被災地「西原村」に譲渡する>

震災直後「ドローン撮影」をされた広島大学 貞森拓磨氏（救急医療の専門家）は、当時、村に着くやいなや副村長から熱く熱く「百年後に語り継ぐために撮ってください！」と要望され、エアショットを2週間撮り続けました。その貴重な記録映像も映画で使わせて頂きました。

再び立ち上がろうとする村のことを、広く知ってもらうために、これから村に生まれてくる子どもたちのために、将来にわたり「自由に」上映会やDVD配布などを行ってもらうことを目的としています。

ディレクターからのメッセージ

映像ディレクターの久保理茎（くぼりけい）と申します。

熊本の被災地・西原村へ、宮崎市から妻の実家の軽トラを借りてトコトコ通い撮影をつづけてきました。

あの日、突然住む家を失い、大切な家族を奪われた方々がいます。

住みなれた土地への愛着と、活断層への恐怖とのはざままで、どうやって地域再生へむかっていくのか、苦悩するみなさんの姿から、多くを学んでおります。

巨大地震がいつどこで起きてもおかしくない、この国。「わがこと」として胸に刻みながら取材を重ねてきました。

そもそも、西原村でカメラを回し始めたのは、2016年の暮れでした。はじめは役場の震災復興推進室（その後「課」に昇格）の職員の方々の協力を得て、撮影を開始しました。

そして、布田（ふた）や大切畑（おおおぎりはた）といった、壊滅的被害をうけた地区のみなさんも撮影に協力していただけるようになりました。

みなさんの、ポツリポツリ語ってくださる言葉や、逆に言葉にできない時のシジマには、とにかく何かを伝えたい、知ってもらいたい、という熱い思いがあふれていました。

私が映像の仕事をした1991年の雲仙普賢岳の噴火以来、1995年の阪神・淡路大震災、2004年中越など、各地で長年経験したことのなかった異変が起き、2011年の東北、そして2016年熊本とつづいています。列島にすむ、すべての人が当事者となる可能性があるということをつくづくおもっております。

彼我の差をこえて、各被災地への支援の輪をつなげていくための、「鎖のひとつ」に、この作品がなればと願っています。

プログラム

18:30 プロローグ（10分）松永昭吾 熊本地震と西原村の歴史

18:40 映画「西原村」上映（85分）

20:00 講演「この国に生きるといふこと～過酷な自然現象との共生～」（30分）松永昭吾

災害大国日本の歴史に災害と共生してきた日本人について考え、未来の日本についての気楽で
ちょっぴりまじめなお話

20:35 エピローグ 映像ディレクター 久保理茎

20:40 終了

音楽を担当して

「千年に一度」と言われていたのに突然襲いかかってきた地震。そこに浮かび上がってきたのは「日本中の誰もが向き合わざるを得ない現実」。家族、地域のこと、過疎、仲間、友達、復興、移転、補助金、住宅ローン、古い、親子、夫婦、先輩後輩。あれやこれやがギュッと詰まっています。

全編が超シリアスなんだけど柔らかな希望の詰まったドキュメンタリー。どこか不思議とブルージーでスモーキーで微笑んでしまうのは、映っている全員がトコトン正直で一生懸命だからなのでしょう。ご覧になりたい方は全国どこでも飛んでいきますので公式サイトまでお知らせください。久保代表の励みにもなるかと。

映画音楽／MA 種子田博邦